



「親は子どもの応援団」

私は、子育てとは、親と子どもと一緒に成長する為に努力する過程だと思っています。私たちが、親になるのだと実感したのは、女性であれば妊娠・出産を経験した瞬間だと思っています。男性は、多分生まれた我が子を抱き上げたときではないでしょうか？

私自身も、お腹が大きくなり胎動を感じた時に改めて親になるのだと実感しました。

よく妊婦さんが、お腹をさする姿を目にしますが、大切なものだからこそその自然な姿ではないのでしょうか。親にとって子どもは、いつまでも見守り続けるかけがえのない宝です。親となり子どもを思う気持ちを持ち続けることは、とても大変なことだと感じています。

私は、母がいつまでも子ども扱いをし、何かと心配してくれる姿が、とても嫌に感じる年頃がありました。そんな私に、共感していただける方がいるのではないのでしょうか？

結婚そして出産…大人としての人生の岐路に立つ瞬間、今から思えば親としてではなく、人生の先輩としてアドバイスしてくれた言葉にも、感謝する気持ちもなく、耳を傾けられなかった自分に深く反省しています。

先日、娘に同じようなことを言っている自分に気づき改めて反省しながら、親としての思い、そして、気持ちを感じられ、複雑な感じでした。きっと「うるさいな・今からやるのに…」と思っていたのでしょう。分かってはいても、ついつい言うてしまう…と母から私、そして娘と繰り返されるのでしょう。

気がつけば娘も中学3年生、自分の進路に真剣に向き合う時期になりました。幼稚園・小学校…元気に楽しく学校生活を過ごしてくれる姿が嬉しく感じていた頃とは違い、中学校では部活・勉強と“文武両道”を目標に日々努力する！と頑張っていました。

以前から希望していた吹奏楽部に入部し、初めてクラリネットを手にし、吹いてみたそうです。帰宅後すぐに、『ママ、音は出たけど…なんか上手く出来なかった』『でも初めて吹いて

大垣市PTA母親代表

嘉瀬 美和

音が出るのは凄いね』と先輩に言われたよ。と嬉しそうに少し興奮気味に話す我が子、昨日まで『どうかな？音出るかな？』と不安な気持ちで一杯だった様子とは、全く違っていました。あの感動した瞬間は、娘にとって今でも、忘れられないそうです。

あれから3年間、娘は親の心配をよそに、部活（吹奏楽）に全力投球でした。正直、親としては、勉強と両立して欲しい気持ちでした。猪突猛進、器用に何もかも出来るタイプの娘ではないとは思いながら期待しながら、見守ってきました。大会・コンクールでは、自分たちが目指していた結果を得られなくて、悔しくて泣く姿・次こそは…と翌日から頑張る姿を見ていて、口には出せませんでした。『もう十分すぎるほど頑張っているよ』『きっと次こそは』と心の中で応援していました。

今年は中学生として最後の大会、娘の思いも今までとは比べられない様子でした。親として何かしてあげられるのか？自問自答しての大会当日、演奏が始まった瞬間、鳥肌が立つという感動もあり涙がこぼれました。あの一瞬に娘の頑張っていた3年間が重なったからだと思います。中日・朝日の大会で思った結果を得られ、東海大会では、結果を得られませんでした。娘は泣きませんでした。もっと落ち込み泣き続けるのでは、と思っていたので驚いていた私に、『今年度の大会は、みんなで一生懸命に頑張ったやりぬいた結果だから、満足（達成感）したよ。吹奏楽をやって本当に良かった』と笑顔で話してくれました。何かをやり遂げた達成感、その本人しか経験できない貴重な経験です。きっと娘自身の人生で最もすてきな思い出になったと、心から信じています。本当の意味の“人生の宝物”そんな娘を、これからも温かく見守り続けながら、いつまでも応援していきます。

そして、子育てを通じて、娘と一緒に成長していけるよう、日々努力していきたいと思っています。



研究・研修

研究実践もまとめの時期に！

特別研究委員会

12月2日(金)に、第2回特別研究委員会全体会を開催しました。

特別研究委員会では、「保幼・小・中一貫性ある教育」を大きなテーマとし、研究に取り組んでいます。

昨年度に引き続き、学習指導要領改訂の趣旨をふまえ、9年間を見通した小中学校における教科の系統表の作成や保幼小の連携に役立つ指導計画の作成、特別な支援が必要な児童生徒への指導援助や支援の在り方についての研究実践に取り組んできました。

本年度の成果を各学校で活用していただけるよう、3月末までにCute Staffの掲示板で公表する予定です。

教育実践研究論文申請者研修会

今年度、教育実践研究論文に応募された先生方の第3回目の研修会を12月15日(木)に行いました。

今回は、各自が今まで積み重ねてきた実践のまとめ方について、グループごとに交流し、担当の指導主事から指導・助言をいただくことを中心に行いました。



論文の提出は、1月31日までとなっています。提出された論文は、2月の下旬までに審査し、3月17日には表彰式を開催する予定です。

研究指導員会



12月16日(金)には第3回研究指導員会を行いました。今年度のまとめとして、研究指導員が、各学校の研究会で行った指導内容をもとに研究集録を作成します。その原稿の交流を行い、校長会の担当校長先生(教文・進路委員会)からご指導をいただきました。研究指導員の研究集録は年度末までに作成し、各学校に配付します。

教育相談

不登校児童生徒への対応は、複数の職員で行うことが重要です。そのメンバーは、担任を中心として、良好なかかわりのある職員ということになります。メンバーは、それぞれの役割をもって本人とかかわります。

チームでかかわることで、次のようなメリットがあります。

- ①子どもをさまざまな教師の目で立体的に見ることで援助案が考えやすくなる。
- ②担任を支える教師同士の協働性が高まる。
- ③チーム援助会議に提案することで、解決のヒントが得られる。

④教師それぞれが実行可能な援助案を考える
必要性が認識できる。

このようにチームでかかわることで不登校児童生徒に寄り添った、指導・支援をしていくことが出来るようになります。

ここで重要なのは、チームの動きが、生徒指導主事等から校長・教頭まで通じていることです。学校全体でかかわる体制が大切です。

そして、必要に応じて学年会やケース会議を開き、支援の方針を実態に応じて最新のものにすることが大切です。

また、ケース会議は、校内だけではなく関係機関との連携を図ることが大切です。それぞれのケースでかかわる機関が違うが、どの場合でも支援方針に沿って、それぞれの機関(学校教育課・教育総合研究所・子ども相談センター・ひまわり学園など)が役割を分担して支援をしていくことが大切です。

教育相談係では、学校訪問相談や支援訪問で各学校にお邪魔していますが、各校のケース会議にも、参加させていただきます。ぜひご一報下さい。

(参考文献：「学校におけるチーム援助の進め方」

児童心理 2011年2月号臨時増刊No. 927)

少年支援

教師の勢力資源

『静かにしなさい』という指示の一言を、子どもに素直に受け入れられる教師。なかなか受け入れられない教師。

どの教師も子どもに真摯に向き合っていますが、それでも現実にこのような差が生まれてくることも事実です。どうやら、指示の出し方の問題以前に、子どもがその教師をどう見ているのかが影響していると言えます。

子どもたちは、教師に何らかの勢力を感じていて、実はその勢力に従っている。これを『勢

力資源』と言います。

子どもたちが教師をとらえる勢力資源には、次の六つの種類があるとされています。

- ①準拠性：教師に対する好意や畏敬の念、信頼感、ある種のあこがれ等。
- ②親近・受容性：教師に対する親近感や、自分を受け入れてくれるという被受容感等。
- ③熟練性：教師の専門性にもとづく教え方のうまさ、熱心さ等。
- ④明朗性：教師の性格上の明るさなど。
- ⑤正当性：『教師』『先生』という役割や社会的な地位等。
- ⑥罰・強制性：教師の指示に従わないと罰せられたり、成績に響いたりするから等。

『先生の言うことを聞くことは当たり前』つまり、⑤正当性や⑥罰・強制性だけで指導が成立した時代は、残念ながらはるか昔のことです。いわゆる『指導力』の向上が求められる昨今、我々教師は謙虚に自らを振り返り、自分は特にどの『勢力資源』で勝負していくのかを考えなくてはならないとも言えます。

教師が子どもの持つコップに水を注ぐとき、そのコップの口を上向きにさせること。すなわち、子どもが教師の指導を前向きに受け入れる状態にすることが生徒指導です。生徒指導もまた、⑤正当性や⑥罰・強制性だけでは成立しません。『尊敬する〇〇先生の言うことだから聞いてやろうか』『自分を受け入れ、関わってくれる〇〇先生に申し訳ない』『朝早くから、先生が運動場で待っていてくれるから自分も頑張らなくては』など、むしろ①準拠性や②親近・受容性、③熟練性が生徒指導面で有効に働くことは、経験上明らかであると言えるでしょう。

すべての『勢力資源』をパーフェクトに備えることは人間として不可能ですが、子どもたちのためにも、『勢力資源』を少しでも多く備えた頼りがいのある教師を目指したいものです。

参考文献：教師としてのソーシャルスキル（河村茂雄著）

教育情報

とっても便利な ショートカットキー

コンピュータが一般社会に出始めた頃は、入力する機器といえばキーボードくらいしかありませんでした。入力はすべて、キーを打つことで行っていたので、大変な手間がかかったことを記憶されている方も多いことと思います。その後、技術が進歩し、今ではマウス操作のみで一通りのことができるようになりました。インターネットの閲覧を始め、我々はこの恩恵にあずかっています。

しかし、マウスを動かすということは、時と場合によってはかえって不便ということもあります。みなさんは、ワープロソフトを使っているときに、キーボードから手を離してマウスを操作し、再びキーボード操作に戻ると、作業の流れがとぎれるような思いになることはありませんか？こんな時に役立つのが今回紹介する「ショートカットキー」です。

例えば、文章をコピーすることを想定しましょう。マウスを使う一例として、

コピーする範囲をドラッグ（選択）する

- マウスを右クリックし「コピー」を選択
- コピー先に移動して右クリック
- 「貼り付け」を選択

という手順を踏みます。これに対して、ショートカットキーを使うと、

コピーする範囲を選択する（shift+矢印キー）

- キーボード上で Ctrl+C を押す
- コピー先に移動して Ctrl+V を押す

という手順で同じように貼り付けられます。ここで、**Ctrl+C**とは、**Ctrl（コントロールキー）**を押しながらアルファベットの**C**を押すことを意味します。慣れてくると、キーボードから手が離れない分、能率よく作業が進むようになります。何回も同じ文章や文字等を貼り付けたい場合には、**Ctrl+V**を繰り返し押せばよいです。

こういったショートカットキーは、他にもいくつもあります。Wordの場合を次に紹介します。

Ctrl+A	すべてを選択する
Ctrl+B	選択された部分を太字にする
Ctrl+I	選択された文字を斜体にする
Ctrl+U	選択された文字に下線を引く
Ctrl+L	Ctrl+R 左寄せ、右寄せ
Ctrl+C	選択された文字他をコピーする
Ctrl+X	選択された文字他を切り取る
Ctrl+V	選択された文字他を貼り付ける
Ctrl+P	表示されている文書を印刷する
Ctrl+S	今編集している文書の上書き保存

これらのショートカットキーは、使っているソフトや OS によって機能が変わるものもありますし、共通であるものもあります。例えば、コピー、切り取り、貼り付け、印刷等は、共通です。

パワーポイントでは、**W**キーだけ押すとスライドショーの画面が真っ白になります。**B**キーを押すと画面が真っ黒になります。これは、元データに関係なくそのように表示される仕様になっています。**Ctrl+M**と押すと、新しいスライドが加えられます。

インターネットエクスプローラーで、**Ctrl+F**と押すと、検索の画面が出てきます。表示されている画面の中から、目的の文字列を探すのに便利です。

キーボードには、普段あまり意識しない**ウィンドウズキー**（Windows のマークのついたもの）や**アプリケーションキー**（右手下側にあるメモのようなマークのついたもの）と呼ばれるものもあります。ウィンドウズキーは、スタートボタンをクリックしたときの画面と同じものが表示されます。これを活用すれば、マウスなしでも電源を落とすことができます。また、アプリケーションキーでは、マウスの右クリックと同じ画面を表示することができます。こちらも、使い慣れてくると大変便利な機能です。

今では日常生活の一部に入り込んできたパソコン。今回紹介したキー操作を活用すると、もっともっと楽しくコンピュータ活用ができます。作業効率アップ、便利な機能の活用で、一歩進んだコンピュータ操作をしていきましょう。